

## 1. 評価結果(概要表)

作成日 2008年3月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0492600028
法人名	(株)ウェルフェアフォレスト
事業所名	グループホーム 十符の里
所在地 (電話番号)	宮城県宮城郡利府町菅谷台4-2-13 (電話) 022-767-5048

評価機関名	社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会		
所在地	仙台市青葉区五橋2丁目12番2号		
訪問調査日	平成20年3月4日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(平成20年1月6日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成19年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人

## (2) 建物概要

建物形態	<input type="checkbox"/> 併設/ <input checked="" type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築/ <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋平屋一部二階 造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 120,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有(期間90日一括償却) <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は1日当たり		750 円	

## (4) 利用者の概要(1月6日現在)

利用者人数	6 人	男性	3 人	女性	3 人	
要介護1	0 人	要介護2	2 人			
要介護3	4 人	要介護4	0 人			
要介護5	0 人	要支援2	0 人			
年齢	平均	78.8 歳	最低	72 歳	最高	85 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおさか内科・外科クリニック 鉤取歯科医院
---------	-----------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>同法人では仙台市・多賀城市・利府町に当グループホームを含め4ヶ所のグループホームを運営している。当ホームは利府町の大型ショッピングセンターや公園の近郊、住宅地の一角に位置し、ホーム室内は明るく家庭的で、設備はバリアフリー化がされている。なお、建物は2ユニット分の設備があるが、現在1ユニットのみの運営となっている。</p> <p>利用者の家族へは金銭管理の出納帳等が毎月郵送され、ホーム便りも隔月で配付している。また、運営推進会議を活かしてホームのサービス向上につなげていく取り組みが行われており、町に運営状況や取り組みを理解してもらうための担当者への相談・報告も月2回程度行われている。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で課題として挙げられた「家庭的な共有空間づくり」「居室の環境づくり」「地域の人達との交流促進」「周辺施設等の理解・協力への働きかけ」「緊急時の手当」については改善がされている。「定期健診の支援」「相談・苦情受付の明示」「ホーム機能の地域への還元」については今後の課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、評価の意義や内容について職員全員で話し合いが行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、事故や苦情の状況報告も含めたホーム運営に関する報告が行われ、参加メンバーである利用者家族、民生委員、地域の方、担当職員と一緒に話し合い、ホームのサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム内や公的機関の苦情受付窓口について説明し、家族の来訪時には意見や希望を話してもらうよう働きかけが行われている。運営推進会議には利用者家族にも出席してもらい積極的に意見を伺っている。また、苦情受付BOXの設置については訪問調査時において検討中とのことであった。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し地域との付き合いに努めており、町内会の防災訓練へ参加する等の取り組みがあるが、今後は日常的な交流や地域の学校等との交流、積極的なボランティアの受け入れ等の取り組みも期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取組を期待したい項目

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている	法人の運営理念のもと、地域との関係性やチームケアの取り組みを謳った事業所職員独自の行動指針を作成、年1回以上見直し、検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取組 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の運営理念や事業所職員独自の行動指針について、朝礼時に唱和する等して職員全員が理解し、サービス提供の場面に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域との付き合いに努めており、町内会の防災訓練へ参加する等の取り組みがあるが、日常的な交流や地域の学校等との交流、積極的なボランティアの受け入れ等の取り組みが不足している。	○	地域住民との日常的な交流や地域の学校等の行事参加、ボランティアの受け入れ等に積極的に取り組むことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で課題として挙げられた「家庭的な共有空間づくり」「居室の環境づくり」「地域の人達との交流促進」「周辺施設等の理解・協力への働きかけ」「緊急時の手当」において改善がなされている。「定期健診の支援」「相談・苦情受付の明示」「ホーム機能の地域への還元」については今後の課題である。なお、今回の自己評価については評価の意義や内容について職員全員で話し合いが行われている。	○	「定期健診の支援」、「相談・苦情受付の明示」として第三者委員の設置等については、今後の取り組みが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事故や苦情の状況報告も含めたホーム運営に関する報告が行われ、参加メンバーである利用者家族、民生委員、地域の方、担当職員と一緒に話し合いホームのサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、毎月2回程ホームの運営状況や取り組みを理解していただくために担当者へ相談・報告を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りや利用者一人ひとりの暮らしぶりを伝える新聞を2ヶ月に一度配付しているほか、金銭管理の状況を毎月家族へ郵送している。また、利用者の状況の連絡も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内や公的機関の苦情受付窓口について説明し、家族の来訪時には意見や希望をだしてもらおう働きかけがなされている。運営推進会議には利用者家族に出席してもらい積極的に意見を伺っている。また、苦情受付BOXの設置については調査時において検討中とのことであった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者や会社内の異動が多く、引き継ぎの時間も不十分な状況であり、職員と利用者とのなじみの関係を重視した対応がされていない。	○	職員と利用者とのなじみの関係を重視し、職員の交代による利用者の心理的負担へ配慮した対応が期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取組 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回内部の勉強会を行うと共に、職員の役割に応じた外部研修にも積極的に出席している。また、外部研修出席者によるホーム内での伝達研修によって、研修内容を周知し情報を共有する取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	宮城県ケアマネジャー協会塩釜支部の研修に管理者が出席するなどの取り組みはあるものの、宮城県認知症グループホーム連絡協議会への加入は検討中であり、地域の同業者と職員交流や連携を図る取り組みがない。	○	同業者ネットワークへの加入と交流によって、日々のサービスや職員の育成に役立つ実践的な交流や連携を図っていくことが期待される。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には利用前に一度ホームへ来て体験利用をしていただいたり、本人や家族と十分な話し合いが行われたり、個別の利用開始の調整が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	調理や裁縫、掃除、家庭菜園等、利用者それぞれの得意分野を活かし、職員がそれを教えてもらい感謝するという関係性が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の調査やホーム内での会話や様子、来訪した家族との話し合いなどから利用者の意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中から本人や家族の思いを伺うとともに、職員全員で協議した内容と主治医等から聴取した意見が介護計画に反映される仕組みがある。また、計画書については家族の同意を得た上で交付している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などが評価され、最低3ヶ月に1回見直しが行われている。また、必要に応じた見直しが随時行われている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院やホーム内での医療保険でのマッサージ等、必要な支援について柔軟な対応がなされている。また、外出、外泊支援等日常生活に関わる多様な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する主治医、各専門医療機関に受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等及びかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にともなう「ケア指針」や「意思確認書」はない。なお、重度化や終末期への対応は個々のケースによって家族・主治医を交えて、対応方針を協議・決定している。	○	ホームにおける終末期の対応方針を定めると共に、重度化にともなう意思確認書の作成が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護や記録の保管等の個人情報の取り扱いについて配慮している。また、職員の態度は優しく穏やかで、さりげないケアが実践されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	起床、入浴、食事等が一人ひとりのペースで行えるよう、工夫をして対応している。また、利用者が「その日」したいことをお茶のみの時間等に把握し希望に沿った一日が過ごせるように支援が行われている。		

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、和やかな雰囲気ですりげないサポートがなされている。また、利用者と職員と一緒に調理や後片付けを行い、献立についても利用者の好みや希望に合わせたものが取り入れられるようになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の生活習慣や希望に合わせた入浴が毎日できるように支援しており、入浴を拒む利用者へは、気分転換を図りながら時間をおいて声がけを行い、入浴していただくようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や後片付け、裁縫、散歩、家庭菜園、釣り、山菜採り等、入居者一人ひとりが楽しみや役割を持ちながら、生活できるよう多様な活動が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	利用者の希望に合わせて可能な限り、外出を行っており、近隣への買い物や散歩、ドライブ等、一人ひとりその日の希望に沿った日常的な外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	利用者の外出傾向を把握しており、日中は自由に入ることができるように鍵は掛けられていない。また、扉が重いため、取っ手をつけて対応する予定である。なお、近隣の方々から連絡をしてもえるような関係づくりにも取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	町内会の防災訓練に参加し、ホームで夜間想定を含む避難訓練を実施しているが、ホームでの避難訓練に地域住民の参加・協力が得られていない。また、非常用食料や備品が準備されていない。	○	避難訓練を地域住民の参加、協力を得ながら年2回以上定期的に実施するとともに、非常用食料や備品等の準備が期待される。

外部	自己	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取組を期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重のチェックが月2回実施され、ホームの献立については、3ヶ月毎に栄養士から助言を受けている。また、食事や水分摂取量のチェック表が作成され、栄養摂取や水分確保の支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさやテレビの音量、温度の調節が適切に行われ、時計や暦も見やすい場所に設置されている。換気が適切になされ、臭気や空気のよどみも感じられない。また、共用空間には季節感の感じられるものやなじみのものが配置され居心地よく過ごせるような配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものや思い出の品が持ち込まれ、利用者一人ひとりが居心地よく安心して生活できる居室づくりの支援が行われている。また、より良い居室づくりに継続的に取り組んでいるところである。		